

科目名称	視覚生理・病理		
	(担当教員名： 芝田裕一)		
課程	： 大学院（修士）1年次	開講学期	： 前期
授業形態	： 講義	授業規模	： 31～80人
インタビュー対象教員名	芝田裕一		
	(実施日時：7月8日（水）10時40分～12時10分；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
インタビュー対象受講者名	岸本紫野，山口裕子		
	(実施日時：7月13日（月）14時50分～16時20分；実施場所：共通講義棟212室)		
選定理由	<p>特別支援学校教員免許状取得に必要な履修科目として位置づけられる本授業科目は、視覚障害につながる視覚生理・病理についての単なる基礎的知識の習得に留まらず、受講者が教員として視覚障害児・者へ適切に関われるようになることを目指すものであり、そのための工夫が随所に施されている。</p> <p>まず、専門用語が多く理解が困難な生理学・医学分野であることを考慮し、資料は厳選して配布され、初心者でも理解しやすいよう、平易な言葉で説明がなされている。授業評価アンケートにおいても、配布資料と説明の仕方に関する受講者の評価は非常に高かった。</p> <p>また、担当教員は、毎回の授業の様子や課題の提出状況などから、受講者の理解の程度を確認するとともに、次年度に向けたシラバスを同時並行で作成している。配布資料の順序や内容の更新などの微調整を重ねることで着実に授業の質を高めている。</p> <p>つぎに、受講者が当事者意識をもって視覚障害につながる視覚生理・病理への理解を深められるよう、疑似障害体験演習が取り入れられている。実施にあたっては、相当な労力を要すると推察されるが、視覚障害児・者理解には欠かせないものとしてシラバスに組み込まれている。インタビューや授業評価アンケートの自由記述からも、体験を通じた学びの有効性が受講者にしっかりと伝わっていることがうかがえた。</p> <p>さらに、担当教員は、受講者自身が気づきを持てるよう、授業中にも日常生活での具体的な内容を意図的に提供するよう心掛けている。受講者は、自分の生活に置き換えて物事を判断できるようになり、受講以前には気づけなかったような些細なことにも気づけるようになったという感想をインタビューで述べている。</p> <p>このように、本授業科目では、授業の意図を具現化するために、徹底した学習者理解と細やかなフィードバックによって、着実に授業の質が高められている。そして、担当教員と受講者の両方によって、気づきや学びを大切にした学習の場がつけられている。</p> <p>以上の事柄より、「視覚生理・病理」を、本活動が理想とするベストクラスに相応しいと判断し、平成26年度のベストクラスに選定したい。</p>		